

# 高校生の体験入学行動に関する研究

佐藤 公代

(教育心理学教室)

(平成15年5月22日受理)

## Study on the Behaviors of the Entrance Experience in High School Students

Kimiyo SATOU

### (問題と目的)

青年期に位置づけられる高校生にとって、大学受験というのは、一大イベントであるだろう。最近、国立大学でも体験入学という行事が行われ、大学を見学し、一日、大学生気分を味わってもらっている。

筆者は、かねがね、体験入学というのは、どんな意味があるのだろうか、と疑問に思っていた。筆者自身体験したことがないので、何かの機会をねらって、高校生の体験入学行動を調べてみようとした。幸い、学生・入試委員を仰せつかり、体験入学の行事の仕事にありつけた。来年に向けての改善点を見いだすために、筆者独自に調査法を試みた。

筆者は、「ふれあいへのチャレンジ(君も一日教育学部生)」の「教育学部生と話そう」の企画運営にかかわったので、その点だけにしぼって、高校生の行動観察をすることにした。仮説は次の通りである。

- (1)「参加した動機」、「参加しての感想」、「グループ方式」、「話した内容」、「教育学部に入りたい度合い」については、学年、男女差に違いがあらわれるだろう。
- (2)「先輩達の態度について」の好感度は良いであろう。

### (方 法)

- 1) 期日：2002年8月9日
- 2) 対象者：高校生64人(3年生、男子2人、女子40人、2年生、男子1人、女子12人、1年生、男子3人、女子6人)
- 3) 手続き：1, 2, 3回生の学校教育教員養成課程の学生7人(男子2名、女子5名)とグ

ループごとに話し合ってもらった。その間、筆者は机間巡視し、最後に、筆者が作成した調査用紙（参加した動機、参加しての感想、グループ方式について、先輩達の態度について、話した内容について、教育学部に入学したい程度）に答えてもらった。

## （結果と考察）

表1に結果を示す。

表1から、次のことが言える。

- (1) 参加した動機としては、3年生、2年生の男子と、2年生の女子において、「生の声が聞けると思ったから」が多い。その理由として、「自分にプラスになる」「楽しいところだと

表1 「教育学部生と話そう」に参加しての結果

項目	学年 男女	3年生		2年生		1年生	
		男子	女子	男子	女子	男子	女子
参加した動機	先輩と話したかったから	2人 0 (0%)	40人 17 (40%)	1人 0 (0%)	12人 1 (8%)	3人 0 (0%)	6人 2 (29%)
	ただ何となく	0 (0%)	2 (6%)	0 (0%)	3 (25%)	0 (0%)	0 (0%)
	面白そうだったから	0 (0%)	6 (14%)	0 (0%)	2 (17%)	2 (67%)	5 (71%)
	生の声が聞けると思ったから	2 (100%)	17 (40%)	1 (100%)	6 (50%)	1 (33%)	0 (0%)
参加しての感想	楽しかった	1 (50%)	35 (88%)	0 (0%)	8 (67%)	2 (67%)	4 (67%)
	どちらでもない	1 (50%)	5 (12%)	1 (100%)	4 (33%)	1 (33%)	2 (33%)
グループ方式について	よかった	1 (50%)	30 (75%)	0 (0%)	8 (67%)	1 (33%)	4 (67%)
	どちらでもない	1 (50%)	7 (18%)	1 (100%)	4 (33%)	1 (33%)	2 (33%)
	悪かった	0 (0%)	3 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (33%)	0 (0%)
先輩達の態度について	親切でよかった	2 (100%)	39 (100%)	1 (100%)	12 (100%)	3 (100%)	6 (100%)
話した内容について	もっと深めたかった	0 (0%)	9 (22%)	0 (0%)	4 (33%)	2 (67%)	0 (0%)
	このくらいでよい	2 (100%)	29 (73%)	1 (100%)	8 (67%)	1 (33%)	3 (50%)
	わからない	0 (0%)	2 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (50%)
教育学部に入学したい強弱	ぜひ入りたい	2 (100%)	28 (70%)	1 (100%)	5 (42%)	2 (67%)	2 (33%)
	少しは入りたい	0 (0%)	11 (28%)	0 (0%)	5 (42%)	0 (0%)	1 (17%)
	どちらでもない	0 (0%)	1 (2%)	0 (0%)	2 (16%)	1 (33%)	3 (50%)

わかる」があげられる。3年生の女子は、「生の声が聞けると思ったから」と、「先輩と話したかったから」が多い。その理由として、「いろいろなことが聞ける」があげられる。それに対し、1年生はまだ切迫していないので、男女とも「面白そうだったから」が多い。

- (2) 参加しての感想については、3年生男子は、「楽しかった」と「どちらでもない」が半々である。その理由として、「生きた経験ができる」「参考になった」があげられる。それに対し、3年生、2年生の女子と1年生の男女は、「楽しかった」が多い。その理由として、「身近に思える」「いろんな話が聞ける」「参考になった」があげられる。2年生の男子は「どちらでもない」に反応している。その理由として、「話がむずかしい」をあげている。
- (3) グループ方式については、3年生の男子は、「よかった」と「どちらでもない」が半々である。その理由として、「質問し易い」「先輩がいたらよかったのに」をあげている。3年生、2年生、1年生の女子は、「よかった」と反応している。その理由として、「気楽に質問できる」「話しやすかった」「話し合えた」をあげている。それに対し、2年生の男子は「どちらでもない」に答え、1年生の男子は、「よかった」「どちらでもない」「悪かった」に分かれた。その理由としては、「少数がよい」「個人見学が良い」をあげている。
- (4) 先輩達の態度については、すべて、「親切でよかった」との反応であった。その理由として、「明るい」「わかりやすい」「話しやすい」「気をつけてくれ、優しい」「親切」「楽しく話せた」「丁寧」「真剣」をあげている。人選が適切だったのだろう。
- (5) 話した内容については、3年生、2年生の男女子、1年生の男子は、「このくらいでよい」と13:40 - 15:00までの80分間くらいの時間帯に満足していた。その理由としては、「十分ためになった」「理解できた」である。それに対し、1年生の女子は、「このくらいでよい」と「わからない」が半々である。その理由として、「難しい話」「詳しくわからない」をあげている。話した内容については、授業のこと、単位のこと、免許のこと、2つのコースの違いについて、就職のこと、サークルのこと、バイトのこと、保育士などの資格のこと、などである。
- (6) 教育学部に入学したい度合いについては、3年生の男女子、2年生、1年生の男子が、「ぜひ入りたい」、2年生の女子は、「ぜひ入りたい」と「少しは入りたい」が同じ、1年生の女子は、「どちらでもない」が多かった。それらの理由として、「いい感じ」「好きになった」「教育に興味があった」「目標できた」「楽しそう」「とてもいい大学」という積極的な理由以外に「もっと調べてみる」という慎重論もあった。
- (7) 自由記述の欄では、「本当によかった」「話がわかりやすい」「聞きたいことが聞けた」「優しく答えてくれた」「参考になった」「絶対に受かって楽しい大学生活を送りたい」「勉強頑張りたい」「有り難う、頑張ろうと思う」「大学の内容がよくわかった」「とても楽しかった」「人の良さそうな人ばかりだった、食堂のごはんおいしかった、特にプリンがおいしかった」「早く大学に行きたい」と肯定的な感想が多かった。

以上、(1)-(7)から、仮説(1)(2)は支持された。

平成14年度は、まずまずの成果を得たと考えられる。来年度にむけての反省点として、教育学、教育心理学、幼年教育専修生以外の教科の専修コースの学生にも出席してもらい、もっと

幅広い話をしてもらいたいと考えている。

行動観察と調査用紙に対する回答との整合性については、信頼性、妥当性との関連で研究をすすめなければならない。ただ、筆者からの高校生の行動観察を言語的、非言語的な行動から観察する限り、調査の回答と一致している印象は読み取れた。一例としてあげると、机間巡視の際の活発な話し合い、高校生、大学生の輝いた目、真剣な態度である。ひいきめでみているという批判もあるだろう。その批判にたえる実験計画としては、平成15年4月に入学した学生の中で、この討論会に参加した学生を抽出して、面接法、観察法、自然的実験で実証していくことである。

(注) 対象者の高校生の皆様、調査にご協力下さいまして、誠に有り難うございました。話し合いに協力して下さいました大学生の皆様にも有り難うを述べたいと思います。

今回、参考文献、引用文献を使わずに書きました。